

## 復活節第1主日・イースター礼拝説教要旨(4月20日)

『復活の主に会う』 ヨハネによる福音書 20:11-18 早川 真牧師

今朝与えられた聖書の箇所は、マリアが復活のイエスと出会った場面が記されています。マリアは自分の探しているイエスと会話をしながらも、相手がイエスであることに気が付きませんでした。人は自分の問題のみを見つめる時、視野が狭くなりもうこれしかないと思い詰めてしまうことがあります。この時マリアは、自分の探している人がまさに目の前にいるにもかかわらず気が付かないほど、自分の思いと深い悲しみの中に囚われていました。

そのようなマリアに、イエスは「マリア」と言われました。この時ようやくマリアは、自分に語りかけた方が自分の探していた、愛する主であるということを見出しました。イエスはここで、他の誰でもない、世界でただ一人だけのマリアに語りかけられました。その時マリアは目の前の人が自分の探していた方であることが分かりました。

人生における悲しみも、痛みも、苦しきをも、たとえそれが私たちの罪のゆえであったとしても、神様はその罪の中に、恵みを満ち溢れさせてくださいます。その時、悲しみの涙は感謝と喜びの涙に変わり、私たちは神の愛に満たされて、心新たに復活することができます。だからこそ私たちは人生のどんな局面においても恐れることはない聖書によって語られています。

教会は、そのようにして復活の主に出会った者たちが、「私は主を見ました」と告白する場所です。墓の前でも諦められないような、絶望の中にこそ神の救いは訪れます。私たちは、嘆き悲しむ者に復活の主が出会ってくださる希望と共に、今朝のマリアのように「私は主を見ました」と世々限りなく伝え続けてまいりたいと思います。